



<<<<< 目 次 >>>>>

第24回日本がん検診・診断学会総会を開催して	1
第25回日本がん検診・診断学会総会の開催にあたって	3
第10回がん検診認定医習熟講習会のご案内	4
第24回日本CT検診学会学術集会のご案内	5

学会からのTOPICS

第24回日本がん検診・診断学会総会を開催して

会長 森山光彦(日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野 教授)

このたび第24回日本がん検診・診断学会総会を平成28年9月16日(金)、17日(土)、日本大学会館(東京都千代田区九段)において開催させていただきました。また、第11回がん検診認定医講習会及び試験は9月17日(土)に行いました。天候は不順ではありましたが、幸い降雨とはならず2日間を通して200名の参加をいただきまして、盛会裡に終了することができました。

日本がん検診・診断学会は、平成3年に「日本消化器集団検診学会」有賀槐三理事長の呼びかけで「日本婦人科がん検診学会」「日本肺癌学会」の3学会から「がん検診協議会」を創設されました。その後、賛同された「日本腎泌尿器疾患予防医学研究会」「日本乳がん検診学会」「日本小児がん学会」「日本医学放射線学会」が参加して計7学会により、平成6年「日本がん検診・診断学会」が設立されています。過去に本総会会長として日本大学からは、第5回会長を荒川泰行先生(消化器肝臓内科学講座教授、元本会理事長)、第11回を小野良樹先生(消化器肝臓内科准教授、総合検診センター長)、第18回を麦島秀雄先生(小児科学講座教授)が会長を担当されておられます。

第24回日本がん検診・診断学会総会は、テーマを「がん検診・診断学会の現況と今後」といたしました。がん検診の現状を踏まえて、今後検診に活用されうる新しいモダリティを明確にし、将来を見据えたがん検診のあり方について討議させていただきました。今日分子生物学的な新しい手法が開発され、これらのがん検診に用い



るべくさまざまな活動がなされており、がん検診への新知見が報告されつつあります。しかしながら駅前検診やワンコイン検診、遺伝子パネルを用いた検診などが出現し、我々もこのような現状を認知し、問題点を整理すべきであろうと考えました。これらを踏まえて本学会総会では、「新しいモダリティを用いた今後のがん検診とそのあり方(精度管理)」を中心にプログラムを設定しました。特別講演1を久保充明先生(国立研究開発法人理化学研究所統合生命医科学研究センター副センター長)に「ゲノム医療・ゲノム予防の現状と将来展望」を講演いただき、現状ではまだ精度に問題があり、検診の場に応用は無理と思うが将来的には有望な方法となる、とのご意見を賜りました。特別講演2は小俣政男先生(山梨県立病院機構理事長、東京大学名誉教授)に「次世代シーケンサー (Next Generation Sequencer)を用いた日常臨床でのがん遺伝子診断の現状と展望」を賜りました。多様な解析方法を用いて肝癌や子宮癌の診断と予後予測に有効なモダリティとなりえることのご意見を賜りました。

教育講演1は田中純子先生(広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門疫学・疫病制御学教授、広島大学医学部衛生学教授)に「肝がんの疫学」をお願いしましたが、現状での肝炎の浸淫状況や今後の患者数の推移と肝癌数の推移などについて講演いただきました。教育講演2は濱島ちさと先生(国立がん研究センター 社会と健康研究センター)に「がん検診に関する最近の知見：2010年以降の研究とガイドライン」についてご講演を賜りました。各領域での検診のモダリティ別の推奨度などについて詳細な報告をしていただきました。ある意味で臨床とは趣を異にする内容ではありますが、わかりやすく死亡率減少効果を持って検診の方法として推奨しなければならないということを解説していただきました。

教育セミナーは、「各領域における超音波検診の現状と今後の展開」として、司会を三原修一先生(みはらライフケアクリニック院長)、片岡 健先生(広島大学大学院医歯薬保健学研究院成人健康学)にお願いして、各領域のエキスパート演者の先生方に講演をお願いしました。特に基調講演を賜りました三原先生の「超音波に魅せられて！—超音波検診の現状と展望—」は、先生の熱意がひしひしと伝わり感動いたしました。

共催セミナー1は、「がん検診における消化器内視鏡のあり方」として、司会を芳野純治理事、後藤田卓志先生にお願いして、6名の演者の先生に講演をお願いしました。対策型検診に内視鏡検診が推奨されたことより、今後の展開を図る上での問題点などについて講演をしていただきました。

共催セミナー2は「新しいモダリティを用いた今後のがん検診」として、落谷孝広先生(国立がん研究センター研究所分子細胞治療研究分野)に、「体液マイクロRNAによるがん診断」と、大内憲明先生(東北大学大学院医学系研究科腫瘍外科学分野)に、「新しいモダリティ超音波検査を用いた乳がん検診のランダム化比較試験(J-START)」の講演を賜りました。この講演では、早期診断の困難な胆道・膵臓癌のマイクロRNAパネルによる、癌早期発見の可能性を教えてくださいました。また大内先生からは、大規模RCTにて乳がん検診の超音波検査の有効性についてご報告いただきました。7万人のコホートにて900名を超す乳がんの発見があると聞き、その数の多さに驚かされました。

シンポジウムは、「各領域における高齢化社会に求められるがん検診」を設定いたしました。司会を一瀬雅夫理事、金子昌弘理事長にお願いして、各領域より演者を選んで、高齢化社会を見据えて何歳までをがん検診の対



象とするのか、などについて議論していただきました。90歳を超えても手術切除の適応となる最近の進歩を受けて、多彩な議論をしていただきました。また、トランスレーショナルリサーチシンポジウムとして「ゲノミクス・メタボロミクスのがん検診への応用」を設け、松田文彦先生(京都大学医学研究科附属ゲノム医学センター)に「ヒト生物学研究と大規模ゲノムコホート」を、新井正美先生(がん研有明病院遺伝子診療部)に「癌の遺伝医療の意義と診療の現状 遺伝性乳癌卵巣癌と遺伝性大腸癌を中心に」を、吉田 優先生(神戸大学大学院医学研究科病因病態解析学分野)に「メタボロミクスによる早期大腸がんスクリーニングシステムの開発」を、滝澤聡子先生(東レ株式会社先端融合研究所)に「マイクロRNAによるがん検診」のご講演を賜りました。いずれのご講演も現状での診断能についてわかりやすく解説頂くとともに今後の有用性について教えていただきました。

パネルディスカッションは、「検診の有効性評価と精度管理」について、司会を斎田幸久理事と池田徳彦理事をお願いして、演者の選考など精力的に行っていただきましたが、会の直前に池田理事の欠席となり、代理として土田敬明先生をお願いいたしました。「基調講演として、斎藤 博先生(国立がん研究センター がん予防・検診研究センター)に、「がん検診精度管理の基本的考え方」を講演いただき、「がん検診を行うための主たる条件は、1. 死亡率減少効果の科学的根拠が確立していること、2. 精度管理の枠組みが確立し、整備されていることである。これらに不利益が小さいことが3番目に加わる。」として、精度管理は検診の科学的根拠検診が確立していることを前提とし、それが成果に結びつくように行うための仕組みである。という、がん検診の精度管理の基本的な考え方について述べていただきました。その後、各領域ごとに発表していただきました。

ワークショップは、「がん検診と診療の境界線はいかにあるべきか」について、司会を小野良樹理事と河合隆先生をお願いしました。基調講演としまして、「がん検診は過剰診断問題にどう対処したらよいのか」を渡辺記念長命研究所 渡辺 決先生をお願いいたしました。前立腺癌における「良性がん」と「悪性がん」の概念と、慎重に監視を続け生長するがんだけを治療する、いわゆる「意図的経過観察 active surveillance」しかないと考えられ、この観察を実行するのは検診側なのか診療側なのか。この問題に関しいくつかの新しい提案を行われました。その後各分野別に報告がなされました。

一般演題は、18題の応募をいただきまして口演にて行いましたが、貴重なご意見を多数いただきました。

本会にてこれらの主題や教育講演およびセミナーを通して、基礎研究よりがん検診への積極的な活用を促進できれば幸いです。今回の講演にて感じたことは、大腸癌ではメタボロミクスの4因子の測定と、マイクロRNAパネルを併用すれば、98%以上の大腸癌の検出率であると思ひ、商業ベースの検診(健診)がより加速度的に進行するのだろうと感じました。がん対策から見た検診と健診において、新しい潮流を感じて大きな分岐点にたち始めているという実感を再度確認できました。本学会は、この先の新世代へ向けてのがん検診の道のりを歩み出すべく、実り多い学会となったと自画自賛しております。

最後に、ご指導・ご鞭撻いただきました理事の先生方、また無理をお願いしました会員の方々に深謝申し上げます。

第25回日本がん検診・診断学会総会の開催にあたって

会長 片岡 健(広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門 成人健康学教授)



第25回日本がん検診・診断学会総会会長を拝命致しました広島大学の片岡 健と申します。四半世紀経過し第25回という節目の総会として、中国四国地区では初めて開催させていただくことを大変光栄に存じます。会期は、平成29年8月26日(土)、27日(日)の2日間で、広島市南区の広島大学霞キャンパス内の広仁会館および保健学研究科棟において開催します。なお、第12回がん検診認定医講習及び試験は26日土曜日の予定です。

私の専門分野は乳腺外科ですが、乳がんのみならず幅広い領域において、がんを早期発見し治療すること、また過不足の無い低侵襲手術や副作用の少ない薬物治療に対する要望や期待も高くなっています。一方、がん

検診においても、次々と新しいモダリティー技術や遺伝子診断に関する報告とともに、精度管理や過剰診断・過剰治療の課題についても数多くの議論がなされてきています。我々は個別化検診に向けたこれまで以上に質の高い検診を行うとともに、科学的根拠に基づいたがん検診を提供し、また新しい診断技術の開発や、国民や社会への検診の正しい情報などを提供し、より多くの方が適切かつ有効ながん検診を受けられるよう推進するための討論ができる有意義な学術集会にしたいと思います。

本総会のテーマを「我が国でのがん検診の現状と将来への課題」とさせていただき、例年通り特別講演、教育講演、シンポジウム等とともに一般演題を募集し、数多くの会員の皆様が演題を発表していただけるようにいたします。より社会に貢献し得るがん検診の近未来像について討議しましょう。

まだ残暑が厳しい時期ではありますが、どうか一人でも多くの方がクールビズでご参加されますよう、心よりお願い申し上げます。

第25回日本がん検診・診断学会総会 我が国でのがん検診の現状と将来への課題

会 長：片岡 健(広島大学大学院医歯薬保健学研究院 成人健康学 教授)

日 時：平成29年8月26日(土)、27日(日)

会 場：広島大学霞キャンパス内 広仁会館・保健学研究科棟

〒734-8551 広島県広島市南区霞一丁目2番3号

大会HP：<http://npojacdd.org/soukai25/>

特別講演1「大規模ランダム化比較試験J-START：日本のがん対策を推進するために」

大内憲明(東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座腫瘍外科学分野 教授)

特別講演2「安全で精度の高い胃内視鏡検診のコツ」

成澤林太郎(新潟県立がんセンター新潟病院 がん予防総合センター長)

教育講演「がん検診における医学統計学的・疫学的アプローチ」

田中純子(広島大学大学院医歯薬保健学研究院疫学・疾病制御学 教授)

※詳細は、随時大会HPにて掲載いたします。



第26回日本がん検診・診断学会学術集会

日 時：平成30年9月7日(金)～8日(土)

会 場：日本大学会館(東京・市ヶ谷)

会 長：高橋 悟(日本大学医学部泌尿器科 教授)

第10回がん検診認定医習熟講習会のご案内

この度、がん検診認定医の方々およびがん検診に関わる医師を対象に、日本がん検診・診断学会習熟講習会を下記の要領で開催いたしますので、認定医資格を得られた方は是非ご出席くださいますようご案内いたします。本講習会を受講されますと、5年後の資格更新に必要な教育研修単位合計50単位のうち25単位を取得できます。多数の方々のご出席をお待ちしております。

日 時：平成29年1月21日(土)

場 所：日本大学病院5階大会議室

講師：岡田典弘(東京工業大学名誉教授・国際科学振興財団主席研究員)他1名

受講料：5,000円(当日会場で徴収します)

※ホームページにて受講申し込み受付中です。http://npo.jacdd.org/index.php?page=info_a04116

関連学術集会等のお知らせ

第24回日本CT検診学会学術集会のご案内

大会長：仁木 登(徳島大学大学院理工学研究部)

日時：平成29年2月3日(金)、4日(土)

会場：あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目14番地

http://www.kyoubun.or.jp

演題募集期間：平成29年10月17日(月)～11月25日(金)

事前参加登録締切日：平成29年12月31日(金)

事前参加費振込期限：平成30年1月6日(金)

大会HP：http://www.jscts.org/taikai24/index.html

※詳細は、随時上記HPにてお知らせいたします。

第24回
日本CT検診学会学術集会
The 24th Annual Meeting of Japanese Society of CT Screening
—低線量CT検診の技術的課題—

開催日 2017年2月3日(金)・4日(土)
開催地 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)
徳島県徳島市藍場町2丁目14番地 http://www.kyoubun.or.jp
大会長 仁木 登(徳島大学大学院理工学研究部)
HP http://www.jscts.org/taikai24/

第24回日本CT検診学会学術集会事務局
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F(株)クバプロ内
TEL: 03-3238-1689 E-mail: jact-saku24@kubapro.jp

第24回日本CT検診学会学術集会会誌編集局
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F(株)クバプロ内
TEL: 03-3238-1689 E-mail: jact-saku24@kubapro.jp

編集後記

暦の上では冬となりました。皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。さてメールマガジンVol.5, No.2を発行いたします。2016年も11月にはいり年末を控えて皆様も何かと忙しくなる季節になりました。

本号では、まず本年9月16日(金)、17日(土)に私が会長を務めさせていただき、日本大学会館にて開催しました「第24回日本がん検診・診断学会学術集会」の学会報告を執筆させていただきました。本会では200名を超える皆様に御参加をいただきまして盛会に会を運営することができました。ご指導ご鞭撻をいただきました皆様に心より御礼を申し上げます。また「第25回日本がん検診・診断学会学術集会」の会告を、会長の片岡 健先生(広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学教授)に執筆いただきました。紙面を借りまして、第25回の学術集会への多数の皆様方の演題応募およびご出席をお願い申し上げます。

さらに「第26回日本がん検診・診断学会学術集会」の会長に決定されました高橋 悟先生(日本大学医学部泌尿器科教授)より、平成30年9月7日(金)、8日(土)に学術集会が開催されることが報告されました。皆様方におかれましては、是非日程の調整をお願いいたします。

寒さが増してくる季節です。会員の皆様におかれましては体調の管理にお気をつけ下さい。

広報渉外担当理事 森山光彦(日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野)

特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会メールマガジン

2016年11月17日発行 Vol.5 No.2

〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F(株)クバプロ内

特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会

編集発行：株式会社クバプロ

TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837

E-mail：npojimu@jacdd.org URL：http://npo.jacdd.org/